

レジャーダイビング認定カード普及協議会
(Cカード協議会)

2014年9月定例会議議事録

- ◎ 開催期日：2014年9月18日（木） 午後16時00分より
- ◎ 開催場所：(株)PADI アジア・パシフィック・ジャパン
- ◎ 出席者（アルファベット順：敬称略）

☆BSAC JAPAN	株式会社BSAC	細川	俊一
☆JP	JPインターナショナル	平川	大輔
☆PADI	株式会社パディジャパン	中野	龍男
		村上	史朗
☆SSI	株式会社SSIジャパン	栗山	禎尚
☆STRAS	水中活動研究所有限公司	岡本	康男
☆オブザーバー	株式会社 エスアイドゥ	市原	隆久
	JRDA	有原	義則
	DANジャパン	小松	富士夫、 小島 泰史
		平川	雅一、 小島 朗子

1. 進行／記録：事務局 宗田

2. 定例会議事

① DAN JAPAN「Diving Safety Partner (DSP)」紹介

- DAN小島医師よりDSPとHIRAについて説明があった。（以下説明の概略）
 - ・ DSPは「ダイビングサービス提供者がダイビング関連の緊急医療事態に対応することを手助けするツールであり、基準を満たした緊急時の対応計画・装備・手順を持っている店舗をDANに登録し、ダイバーにとって同店舗が基準を満たしていることを確認できるマークとしてDSPステッカーを提供する制度であることが説明された。
 - ・ HIRAとは、「Hazard Identification and Risk Assessment」の略称であり、危険物の同定とリスク評価を行なうプログラムであることが説明された。
 - ・ DANは、上記両プログラムを導入予定で、現在準備を進めている。
 - ・ 導入趣旨を理解の上、Cカード協議会にも協力を求める。
- Cカード協議会側からは、DSPプログラムの規定にある酸素コース他、指導機関が既に整備にしているコースの扱いについて、検討するよう依頼があった。また、同プログラム内の各コースの認定制度の整備について検討依頼があった。

② JRDA依頼「スクーバダイビング事故防止安全対策（案）」について

- JRDA有原氏より経産省依頼事項について、業界内において自主規制を強化しないと法的規制の対象になる可能性が大きいとの説明があり、さらにCカード協議会がJRDAに提出した「スクーバダイビング事故防止安全対策」内P-5「安全の徹底及び講習管理」にある記述の、「現場調査」の方法を具体的に示す様、経産省から指示を受けているとの説明があった。
- 前述の説明後、JRDA有原氏から調査アンケート案について説明があり、同アンケート内容についてC協会各社で検証するよう依頼され、C協はこれを実施することとなった。

③ 大阪会場・第五回ダイバー自身の安全対策セミナー準備状況報告

- 第五回ダイバー自身の安全対策セミナーにおける予定プレゼン内容について、実行委員村上氏より説明があり、同内容の承認が求められた。
- 定例会当日出席者の承認を得、5名過半数の承認となり、同プレゼン内容で実施することとなった。

④ その他

- 株式会社 エスアイドゥ市原氏より、スノーケリング用フローティングボードの紹介があり、使用方法の説明があった。

以上